

広島平和記念式典派遣事業

～つなごう 平和への思い～



「広島平和記念式典派遣事業」

町では、令和4年度から、将来を担う中学生に戦争の悲惨さや平和の尊さについて理解を深めてもらうことを目的に「広島平和記念式典派遣事業」を実施しています。

派遣事業では、平和記念式典への参列や全国こども平和サミットへの参加、原爆ドームや広島平和記念資料館、おりづるタワーの見学などを行いました。参加した4人の中学生は、本事業を通して平和への思いを深く刻み込んできました。

2学期の始業式には、参加した4人が全生徒に向けて、学んだ成果を報告しました。情報を共有することで、参加した生徒のみならず、全生徒が平和意識の向上につながる取り組みとなりました。次のページからは、中学生4人の参加報告を紹介します。



2年1組 吉田 初羽さん

私がこの派遣事業に参加したと思った理由は二つありました。一つ目は、戦争を経験した人が身近にいないので、当時の詳しい話を聞くことができなかったからです。二つ目は、戦争の悲惨さ、平和の大切さを現地を訪れて実感し、戦争を知らない世代に自分の言葉で語りたいと思ったからです。

実際に広島に行くと、原子爆弾が落とされ焼け野原になっていた場所とは思えないほど、発展した緑豊かな都市でした。あの惨状から、ここまで復興させることができた広島の人々のひたむきな努力に胸を打たれました。

心に残っているのは、全国こども平和サミットと広島平和記念資料館です。サミットでは、被爆者である河野キヨ美さんの実体験を聴きました。立ち上る雲、積み重なった死体、倒壊した建物。聞いているだけで当時の様子が伝わってきて、恐怖で心が苦しくなりました。本来なら思い出したくもない出来事を、戦争の脅威を伝え、繰り返し返さないために河野さんは私たちにお話ししてくださいました。戦争・原子

爆弾がもたらした悲劇は、私たちが語り継いでいくべきだと感じました。

資料館では、原爆ドームが被爆した直後の様子や、焼け焦げた三輪車と鉄かぶと、被爆者が描いた人々の様子などの展示物を見ました。被爆時に着ていた衣類などは、原形や色が分からないうちにボロボロになったものもあり、爆発の衝撃の強さを物語っていました。

今、世間では、資料館の展示物は年齢に応じて見学したほうがいいのか、という意見が飛び交っています。直視できないほど生々しい資料を見た子どもが、トラウマになってしまうことを懸念するからだそうです。しかし私は、実際にあった日本の歴史として、年齢に関係なく向き合うべきだと思います。

私は、派遣事業を通して、戦争・核兵器が今まで教科書やニュースで見えてきたものより、何倍も恐ろしいものであること、平和という当たり前の日々を当たり前のように過ごせるありがたみを学ぶことができました。式典では、広島の人々の核兵器廃絶や戦争・平和に対する思いを、サミットでは当時の辛い実体験や代表の学生による「自分が思う平和」について熱心に聴くことができました。資料館やおりづるタワーでは、日本の戦争についての新しい知識を、身に付けたり、折り鶴に込められた復興と未来への希望「世界平和への祈り」などの願いを知れたりしました。被爆した方たちが、どんな思いで今を生きている私たちに被爆時の凄惨な出来事を語ってくれたのかを考えながら、唯一の被爆国の国民として、身近な人たちに自分の考えとともに話していきたいです。



2年1組 吉田 明咲さん

私は今回の広島平和記念式典派遣事業で、平和への考えが変わりました。

平和記念式典では、広島市議会議長、広島市長、内閣総理大臣、広島県知事、国際連合事務総長などの方々それぞれが、平和について語り、平和への祈りを伝えてくださいました。さらに「平和への誓い」では、子ども代表の方が一言一言丁寧に平和への言葉を述べていました。その場にいた誰もが平和について深く深く考えたと思います。

第二回全国こども平和サミットは、全国から集まった子どもたちが被爆者の話を聞いたり、自分たちで平和について思いを発表し合ったりする会です。私が特に印象に残ったことは、被爆を体験した河野キヨ美さんのお話でした。ご本人が描かれた絵と共に当時の状況についてお話しくださいました。残酷でとても驚きました。また、被爆体験記・原爆詩の朗読では、朗読ボランティアの方の力強さで、すぐに朗読に引き込まれました。たくさんの方の学校で平和への活動を行っていることも知りました。折り鶴を折ったり、地

域でのボランティア活動をしたりするなど、それぞれの学校で活動内容が違い、とても興味深かったです。

原爆ドームは鉄骨のドーム枠と一部が残っていました。ドーム周辺の環境は整えられており、私が見に行った時、とてもドームがきれいに見えました。周りを流れる川、たくさんのお木、それらもきれいでした。見ていたら本当に爆発してしまったのか分からなくなっていました。私がそんなふうを感じてしまうほどに復興が進められていることを知ることができました。

平和記念資料館は、原爆が落ちた当時のことをよく知ることが出来る場所です。分かりやすいように耳から情報を知れる音声ガイドがありました。音声ガイドでは、被爆者へのインタビューなども聴くことができ、この資料館では目からも耳からも当時の様子が分かりました。ボロボロになった衣服、兄弟への手紙、履歴書、亡くなったしまった人たちの写真、どれを見ても胸が張り裂けそうになりました。

私は広島へ行き、原子爆弾の怖さを知りました。広島に行く前までは考えられなかったと思います。偉い方だけが平和について考えるのではなく、私たち一人一人が平和について考えることが大切だということに気付くことができました。そして、これに気付けたのはこの派遣事業があったからです。私はこの経験を忘れず、これからも平和について考えていきたいです。



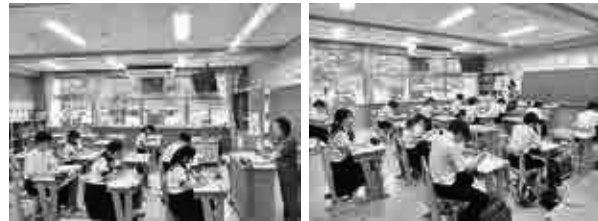
～小野町学力向上推進事業～



中学生サマー・ ショートプログラムを開講

毎年夏休みに行っている、中学3年生を対象とした「サマー・ショートプログラム」を、7月21日から7月31日までの9日間実施し、塾講師による受験対策を中心とした授業を行いました。「夏を制する者は受験を制す」と言われるように、3年生にとっての夏休みは進路実現に向けてとても大切な時期です。

実施後のアンケートでは、55.8%の生徒が「とても満足」、残り44.2%の生徒が「まあまあ満足」との回答があり、実り多い講習になったようです。また「中学1・2年生の復習ができた」「夏休み中でも勉強する習慣が身に付いた」など、効果を実感できる感想がたくさんありました。進路実現に向けて頑張れ、中学3年生！



夏休みセルフ・スタディ・ サポートを開講

夏休みの宿題や中学3年生の受験勉強をサポートする目的で、小学4年生から中学3年生までを対象とした「セルフ・スタディ・サポート」を、8月17日から8月21日までの5日間実施しました。

多目的研修集会施設の第1・第2研修室を会場に、午前・午後の3時間、塾講師2人に常駐いただき、児童生徒の自主学習のサポートを行いました。午前中は小学生、午後は部活動などを終えた中学生の姿が多く見られ、5日間で延べ131人が参加しました。参加した児童生徒は、講師の指導を受けながら、集中して学習に取り組んでいました。



2年2組 生天目 悠仁さん

私は今回の広島平和記念式典派遣事業に参加して、私が学びたかった戦争の悲惨さや、戦争を経験した祖父の想いだけでなく、広島の人々の家族や人命に対する熱い思いと、たくましさを感じました。

1945年当時、広島市内は原爆投下による影響で、市内に入るだけで被爆するという想像もできない状況だったにもかかわらず、家族を探しに自ら市内を訪れる人々、そして一人でも多くの命を救うために被爆しながらも人命救助を続けた救命部隊の人たちは、それぞれ強い信念を持っていたと感じました。

からこそ、ここまで復興できたのだと感じました。

私の祖父は戦争体験者であります。私が生まれるずっと昔に亡くなりました。その当時、祖父がどんな想いだったのかをずっと知りたいたく思っていて、せめて戦争について深く学びたいと思ったのが、この派遣事業に参加した一番の理由でした。

今回の派遣事業の学びを通して、祖父はとにかく平和な未来を願っていたと思います。誰でも大切な人を失うのは、とても悲しいことです。しかし、一度始まった戦争は、両国が和解するか、どちらかの国が降伏するまで続きます。やりたくなくても国を守るために自らの手で人の命を奪うことは、とても重い罪を負うことになると思います。そんな罪を負わずに、みんなが平和に暮らすために、武力で強行するのではなく、自分と違う意見を持つ人とも、互いに理解や尊重し合い、解決するのが大切だと思います。

終戦から81年を迎え、戦争の恐怖や悲惨さを直接語るができる人は日に日に減っています。だからこそ、私には新たな責任ができたと感じています。それは広島を見て、聞いて、肌で感じたことを、言葉にしていくことです。家族や学校、社会に、広島で学んだことや原爆の恐ろしさ、戦争の歴史について受け継いで伝えていきます。



2年2組 村上 恵悟さん

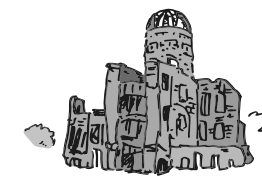
僕は広島に行ってきた皆さんのことを学んできました。その中でも印象に残っていることが二つあります。

一つ目は、原爆ドームについてです。広島は1945年8月6日、午前8時15分に上空600mで原子爆弾が炸裂し、破壊的な被害を受けました。資料館には、当時の戦後の町の様子や人々が着ていた服などがありました。僕はその衣服や所持していた物を見て、今の戦争のない時代に生まれてきて良かったと心から思いました。当時広島で生きていた人々が残酷な死を迎えてしまったことはとても悲しいことです。一つの爆弾で20万人以上の人の命が失われ、半径2kmにも及ぶ市街地が廃墟と化しました。もし自分が広島で戦争にあっていたら、今、日本と親しくしているアメリカに怒りを抱いていたと思います。

二つ目は、水を飲んではいけないことについてです。僕は、原爆のあと水を飲んではいけないことを広島に行き初めて知りました。火傷をする

と体内の水分が失われ脱水状態になります。人々は水を求めましたが、原爆直後、水を飲んで死んでしまう人が多かったため「水を飲ませるな」と言われていました。当時の人々は、すごく苦しかったと思います。そんな中でも生き延びた人たちの力強さに感動しました。

僕は、この広島派遣事業で、社会の学習だけでは分からなかったけれど、現地に行くことで分かったことがたくさんありました。当時の人々のくらしの様子や、都市の復興の様子を見て、とても苦しい日々を乗り越えてきたのだと思いました。道に転がる多くの死体、死体でうめつくされた川など、悲惨な死を迎えた人々の様子を描写している写真などから、とても苦しかったんだな、つらかったんだなと思いました。もう、過去に起こったことは変えることはできませんが、未来は創ることが出来ます。今、生きていることや、これまで自分たちを育て上げてくれた人たちに感謝して生活していこうと思います。そして、二度と戦争を起こさないために、お互いを尊重し合える未来を創っていききたいと思っています。



3歳児よい歯の表彰

おめでとうございます！ これからも歯を大切に！

3歳児よい歯の表彰式が9月25日、子育て支援課キッズルームで行われました。今回表彰されたのは、7月の3歳児健診を受けて、むし歯が1本もなかったお子さんです。

お子さんは一人ひとり、町長から表彰状と記念品を受け取りました。

表彰を受けたお子さんは次のとおりです。(敬称略)

表彰を受けたお子さん

か の 大千 樺乃 長久 朱里	り と 大山 凛虎 橋本 昇	こと か 郡司 琴禾 箭内 結花	さ ゆ 佐久間 彩友
-----------------------	----------------------	------------------------	---------------



ブリティッシュヒルズ研修(2年生)

2年生を対象に、7月29日から1泊2日の日程でブリティッシュヒルズ研修(天栄村)が行われ、53人の希望者が参加しました。この研修は町の事業で、英語力の向上を図るとともに、異文化に触れる機会を設け、国際感覚豊かな人材の育成を図ることを目的としています。ブリティッシュヒルズでは授業はもちろん、すべての場面で英語を使って生活をしました。日本にいながら英語や異文化に触れることができる機会、生徒の英語力が高まる有意義な研修となりました。

英語を学ぶことで視野が広がり、人生が変わるかもしれません。今回の研修をこれからの自分の学習や生活に生かしてほしいと思います。Keep learning English! これからも英語を学び続けてください。



吹奏楽部、大活躍

県吹奏楽コンクールが8月2日、けんしん郡山文化センターで行われ、本校の吹奏楽部が出場しました。午前中は最後の練習・調整を行い本番に備え、午後の本番ではとても気持ちのこもった演奏で銀賞を受賞しました。また8月20日には田村市文化センターで行われた田村地区小・中学校音楽祭に出場し、優秀賞を受賞しました。

8月15日には、おのまち夏まつりに出演し、代表生徒が曲の紹介など司会・進行を務め、大勢の来場者の前で堂々と演奏を披露しました。町の夏まつりのオープニングにふさわしく、会場も大いに盛り上がり、来場された方々も楽しんだ様子でした。秋葉祭(校内文化祭)での演奏もぜひ盛り上げてください。



地区中学校英語弁論大会、県大会出場、さらに東北大会へ!

田村地区中学校英語弁論大会が8月26日、三春交流館まほらで行われ、創作の部に1人(3年)、暗唱の部に2人(1・3年)が出場しました。創作の部に出場した3年生と、暗唱の部に出場した3年生が、ともに1位の成績を収め、県大会への出場権を得ました。夏休み中、毎日中学校で練習し、その頑張りが結果として表れました。おめでとうございます。なお県大会では、暗唱の部で2位の成績を収め、10月30日に山形県酒田市で開催される東北大会にも県の代表として出場することになりました。健闘を祈ります。



<お知らせ>

学校での子どもたちの活動の様子は、「小野町教育ポータルサイト」(<https://ono.fcs.ed.jp/>)に随時掲載していますので、ぜひご覧ください。



吉田政美さんをお招きして米づくり学習会(5年)

今年度、5年生は総合的な学習の時間で米作りを通して「農業」について学習しています。5月には、町内で農業を営んでいる吉田政美さんをお招きし、バケツ稲の土づくりや代掻き、田植えなどの手順を教えていただきながら「コシヒカリ」「つきあかり」「ミルキークイーン」の田植えを行いました。

7月13日に再び吉田さんをお招きし、米づくり学習会を行いました。実際にバケツ稲の生育状況を観察しながら、中干しを始める時期や目安についてアドバイスをいただきました。その後、教室に戻り、吉田さんにインタビューを行いました。「米作りで大変な仕事は?」「うれしかったことは?」「吉田政美さんにとっての米作りとは?」「大切にしていることは?」などの質問に対して一つひとつ丁寧に答えてくださいました。

最後に、吉田さんから子どもたちへ「まかぬ種は生えぬ」という言葉や、「勉強や手伝いなど、いろいろなことにチャレンジして頑張してほしい」という励ましのメッセージもいただきました。

吉田さんは、今年11月に皇居で催される新嘗祭(にいなめさい けんまくしや)の献穀者(けんこくしゃ)に選ばれています。



保護者の皆様のご協力に感謝(エントリー制PTA活動)

本校では、今年度からエントリー制PTA活動を実践しています。これは「1年間の中で保護者のどなたも、1度以上は自分が選んだPTA活動に携わる」という取り組みです。

7月12日は校舎周辺の草刈りと校舎内の窓ふき、8月22日は校舎周辺の草刈りと側溝の溝さらいの作業が行われました。朝早くから多くの方々が集まり、手際よく作業していました。

8月2日、田村地区PTA連合会「学びの集い」が田村市中央公民館で行われ、みはる調剤薬局代表で薬剤師の濱田雅博さんが講演しました。「子どもたちの健やかな心と体を育む ～薬に頼らず健康に子どもたちを育てるために～」というテーマで、食の大切さについて分かりやすくお話いただき、家庭での食生活や生活習慣を見つめ直す貴重な機会となりました。

夏休み明けの8月25日から8月31日までの5日間、登下校安全見守り・あいさつ運動が行われました。児童が登校する時間に合わせて、保護者の皆さんが、本校正門前、駐車場入口、歩道橋脇横断歩道の3カ所に分かれて立ち、子どもたちを温かいあいさつと笑顔で迎えてくださいました。

今後も、負担にならない範囲で、できる人がやるPTA活動をしていきたいと思っています。



<お知らせ>

学校での子どもたちの活動の様子は、「小野町教育ポータルサイト」(<https://ono.fcs.ed.jp/>)に随時掲載していますので、ぜひご覧ください。



子どもの居場所づくり事業 こども食堂

町では子どもの健やかな成長と食育推進を目的として、社会福祉協議会と連携し、毎月1回こども食堂を実施しています。7月17日に開催した際には、小学生57人が地域の老人クラブの方々と交流し、楽しいひと時を過ごしました。学校から多目的研修集会施設へと向かい、みんなで宿題を済ませると、老人クラブの方々に折り紙を教えてもらったり、会話を楽しんだりしながら特製カレーライスと一緒に食べました。

こども食堂は、地域の方々をはじめ、ボランティアスタッフ、皆様のご協力を得て実施しています。今後も子どもたちが安心して交流できる居場所づくりに取り組んでいきます。

こども食堂へ
行ってみよう！



みんなで宿題タイム！



老人クラブの皆さんと一緒に折り紙！



ボランティアスタッフ特製カレー！



カレーライスごちそうさまでした！



おのまち認定こども園通信 芸術の秋を楽しみました！

子どもたちは、『ちいさなみんなの作品展』に向けた制作を行いました。絵の具や折り紙、クレヨンやシールなど、さまざまな素材に触れながら、一人ひとりが自分らしい表現を楽しみました。「この色にしよう。こんな形にしてみたい」と意欲的に制作を進めて完成した作品には、子どもたちのさまざまな思いや工夫がたくさん詰まっていた。また、こども園に人形劇『ずいてん』がやってきました。楽しいお話やユーモアあふれるやり取りに子どもたちは目を輝かせながら、登場人物の動きに笑ったり、一緒に声を出して応援したりと、大盛り上がりの人形劇となり、芸術の秋を感じられる良い一日となりました。



地域子育て支援拠点事業（おひさまカフェ）のお知らせ

～友だちを誘って遊びませんか～

開催日

月曜日・水曜日・金曜日

開催時間

午前10時から午後3時まで

実施内容

おのまち認定こども園では、0歳から就学前までのお子さんや保護者の皆さんの相談や交流の場として、園を開放しています。（※こども園に在園していないお子さんも利用できます。）

電話で簡単に予約できますので、お気軽にお申し込みください。

料金

無料

予約先

おのまち認定こども園 ☎73-8321

実施内容

月 日	事 業 名	内 容
11月 14日④	園庭開放（午前9時から正午まで）	親子で自由に遊べるように園庭を開放します。

令和9年度おのまち認定こども園
入園児募集のお知らせ

令和9年度（令和9年4月）入園
児を次のとおり募集します。

入園を希望される方は、期限内
に忘れずに申し込みをお願いしま
す。手続きが遅れると、4月から
入園できない場合がありますので
ご注意ください。

詳しくは、別途回覧となる案内
チラシまたは町公式ウェブサイト
や町公式LINEをご覧ください。

■申込書配付期間

10月16日（金）から11月2日（月）まで

■配付場所

【新入園児】
子育て支援課

【在園児】
おのまち認定こども園

■申込受付期間

11月4日（水）から12月1日（火）まで

■子育て支援課

☎72-22212

